



Title	九州自然歩道における住民参加活動
Author(s)	志賀, 壮史
Relation	歩く滞在交流型観光の新展開 The New Development through Extended Stay and Interactions with Locals in Walking Tourism
Citation	CATS 叢書, 12, 31-46
Issue Date	2019-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/73762
Type	departmental bulletin paper
File Information	CATS12_7.pdf



九州自然歩道における住民参加活動

志賀 壮史

九州自然歩道フォーラム事務局長

みなさんこんにちは。九州自然歩道フォーラムの志賀です。今日は朝 5 時に起きて、7 時に福岡を出発する飛行機でやってきました。なかなか遠いですね。

九州自然歩道フォーラムは、先ほど木村先生からご紹介いただいて、半分くらい内容としては紹介していただいたかなと思っているので、ゆったり 30 分くらいでご紹介します。

普段は先ほど申し上げましたように、NPO 法人グリーンシティ福岡で、環境保全、環境教育、緑のまちづくりといった仕事に取り組んでいます。ボランティアベースとしてずっとやっているのが、この九州自然歩道フォーラムです。九州各地の自然学校やカヤック体験をやっている冒険家の方、普段は仕事をしているけれどロングトレイルを歩くのが好きな方などが九州各地にたくさんいらっしゃいます。そういった方たちの有志のネットワークとして、九州自然歩道フォーラムを立ち上げました。その事務局といいますか、中を取り持つという役割をしています。私自身は、しょっちゅう山のぼりをしたり、ロングトレイルを歩いたりしているという訳ではありません。これも以前、木村先生に信越トレイルの話を伺った際、「木村さんは信越トレイルを結構歩かれるのですか」とお尋ねすると、「ほとんど歩きません」とおっしゃっていて。そうかと。私もそんなに歩く人じゃないのですが、その話を聞いて調整役として、会議の進行役として九州自然歩道フォーラムでそういう役割をさせてもらっています。

まず、九州自然歩道の紹介から初めたいと思います。1 枚目のスライドですが、九州の地図、九州には 7 つの県がありまして、九州自然歩道は 1980 年に全線が整備されました。東海自然歩道について 2 番目です。現在できつつあるみちのく潮風トレイルも入れると、日本国内に長距離自然歩道が 10 か所あります。北海道にも北海道自然歩道があつて 4,500km ほどの長さであると思います。

今日、長距離自然歩道系でこの場にご出席されているという方は手をあげていただいてよろしいですか？ 岡野さんはもちろん全部かかわっていらっしゃるし、木村先生はみちのく潮風トレイルですね。歴史としては 40 年以上と古かったり、距離としては数千 km あつたりと、距離が長くて、歴史も数十年以上あつてという長距離自然道関係の方は、この場にはあまりいらっしゃらないかもしれませんが、頑張って九州自然歩道のことをご紹介したいと思います。

かたちとしては九州をぐるっとめぐるネックレス型、皿倉山の記念碑があつてそこをスタートして英彦山まで降りて行って、ぐるっと九州を一周します。本線だけでいくと

3,000km ないのですが、ちょいちょい枝分かれの道がありますので、全部まとめると 3,000km 以上になります。国立公園を渡り歩く歩道としてご紹介いただきましたが、阿蘇くじゅう国立公園、霧島錦江湾、雲仙などの名所、国立公園、温泉地、やはりそして九州のあまり語られない特徴としては、ちょっと歩けば、車で 5 分 10 分行けば、必ず集落があること。山が低くて、そこらじゅうに開拓された農村集落があるという点にあると思います。そういう集落の裏山というか、里山を巡って歩いていくというイメージのところが多いと思います。

基点の皿倉山にある碑には長距離自然歩道提唱者のベントン・マッケイの言葉があります。日本の長距離自然歩道は、沿線の自然や歴史文化に触れて、その土地の風土、私たちの住む国土を再認識して、見直して、自然保護の意識を高めること、というのがそもそもの目的として設定されていました。

ちょっとここにきてドキドキしているのは、なんとなくアカデミックな雰囲気に対してドキドキしているのもありますが、もう一つは滞在型観光というくくりに対して、九州自然歩道を歩く人たちは、山の中にテントを張って泊まったり、よそから持って行ったものを歩きながら食べたりするというパターンが結構ありますので、地域活性化、消費という部分でどれだけ貢献しているのであろうかとドキドキしているし、そもそも定量的な評価が難しい世界であろうなと思っています。

そんなところで、何枚か九州自然歩道の写真をご紹介します。福岡県の様子、竈門神社、宝満山と書いてありますが、雪の時期です。今朝、飛行機でおりてくるとき、落葉樹ばかりだな、さすが北海道だなと思いましたが、九州の低山ですので、真冬でも常緑樹が多いです。ちょうど今の 3 月の時期なら、低木のヒサカキという木が白い花を咲かせて、ぷーンとたくあんを薄めた匂いがします。その匂いをかぐたびに、年度末だなと胃がきりきりなってくるんですけれども。開けた落葉樹林の中を歩くというよりも、常緑樹が一年中ありまして、その中の踏み分け道をいくという印象のところ福岡県内は多いです。

おおかた 1km に 1 本ずつ道しるべ、案内サインがあることになっていて、サインには環境省・福岡県と書いてあります。最初、荒れてきて、整備に取り掛かった民間の有志のグループがいたと木村先生からご紹介いただきましたが、実は私たちは整備や管理の部分はほとんど担っておりません。

ピラミッドを書いて三段階に分けて、私たちよくこういう図を書いて役割分担について話しています。新しい場所に道を引く、施設を作るという「整備」が一番下の段。毎年、九州の土地柄もあり、年に 2 回は草刈りをしないと歩けなくなるので、「管理」が真ん中の段。そのあとにマップを配布する、更新する、ウォーキングイベントをするといった「活用」が上の段。私たちは、こういう整理も最初はできていなくて、話をしていく中で役割分担が見えてきました。その中で、「整備」と「管理」に関しては、国や県や市町村、国立公園の中は環境省さんの役割で、それ以外のところは県や市町村の役割ということになり

ます。ただ、きっちり「活用」を進める団体、主体があまりなかった。例えば、道の活用について九州地方環境事務所さんに伺ってもあまり詳しい方がいないということもあったりして、もったいないなと。道は作られて、草刈りもされていて、案内サインも付け替えているのに、活用をサポートする主体となるところがなくともったいないという状態が続いていました。私たちの役割は、こちらの方です。「整備」と「管理」を国や県や市町村。「活用」を民間のフォーラム。こういう分担でうまく手を組めたらいいなと今、頑張っています。

案内サインに、こういうかたつむりマークがついています。私も今胸にバッチをつけていますが、九州自然歩道のマスコットキャラクターがこの「かたつむり」です。スタート地点には「体力増強のための競技が行われることがあれば大変不幸なことだが、そのときは躊躇なく一番遅かった人に賞を与える」とするベントン・マッケイの言葉がありましたが、ゆっくり楽しもう、楽しんでもらおうということで、マスコットはかたつむりになっています。金属のかたつむりのプレートは、私も見たことがなく貴重な写真です。

鹿児島県と宮崎県の境あたりで、ミヤマキリシマが咲いており、見えてないけどちょっと向こうに高千穂峰があるスライド。こちらは鹿児島の開聞岳ですね。実は内陸を歩くコースが多いので、海際のルートは一部ですが、こういった風景も楽しめます。とてもすがすがしい。

そして、九州自然歩道フォーラムのスタッフ福島が、気に入っている写真がこれです。この写真をぜひ紹介してほしいということでした。阿蘇の外輪山の南側、南阿蘇のコースを歩いているところです。草原の向こう側に阿蘇の外輪山の内側の田畑が見えまして、非常に雄大な景色が見られる場所です。こちらの紅葉の写真、私の出身地、大分県の竹田市ですが、その中にあるくじゅうのちょうど紅葉のいい時期、とてもいい写真を撮れたなと思っています。こういう場所もあります。

そして福岡県の平尾台、枯れた野原の中に白い石灰岩が残っている様子を羊が群れているようだと例えたりもしますが、こういう風景も見ることができます。

ここまで、九州自然歩道沿いのとてもいい風景を先に紹介させていただきました。

あらためて大きさを確認したいと思うのですが、九州の地図にオレンジ色の九州自然歩道のルートがあり、その後ろに北海道の線を重ねてみました。北海道、大きいですね。それにしても、九州自然歩道もかなりの距離になります。支線も含めると3,000km以上あるのですけれども、とてもボランティア団体の私たちが全部を見て回る、整備していくのは難しい。そのときに一緒にやっていくのが、国や県や市町村の皆さんです。といっても県で7県、沿線の市町村で104ありまして、それぞれに歩道の管理担当者、管理部署があります。毎年毎年何十人も異動していくということになりますので把握できないのですが、少なくとも国と県のレベルは、毎年九州自然歩道の担当の方の異動があったかなかったか確認して、新しい方がいらしたら何かのついでにあいさつに行くとこういうことをフォーラムではやっています。

アメリカのトレイルである「アパラチアン・トレイル」「パシフィック・クレスト・トレイル」「コンチネンタル・ディバイド・トレイル」であったり、巡礼の道である「サンティアゴ・デ・コンポステーラ」、そして日本国内ではお遍路の道のことを意識しながら、もしくは理想としながら活動をしています、なかなか同じようにはいかないものだなとも思っています。九州自然歩道も課題を抱えていて、荒れている部分があったり、マップが各県で形式が異なっていたりする点です。個人的にはテーマ性といいますが、ここを歩くのはこのためである、九州自然歩道はこういう道であるというテーマ性が、諸外国のロングトレイルもしくはお遍路の道に比べると弱いと感じる点です。

九州自然歩道の課題を箇条書きにしています。一つ目に整備から約 40 年経ち、老朽化や荒廃した部分もあります。が、この数年状況はよくなってきているんじゃないかと思っています。明らかにボロボロで通りにくいところは減ってきているように思います。二つ目の利用情報が少ない、認知度が低いという点については、九州自然歩道ポータルという環境省によるルートの案内サイトや各県のマップ、九州自然歩道フォーラムのサイトや通信紙などがありますが、まだまだこれからかもしれません。三つ目の災害の影響については震災の影響で熊本県内では把握が難しい箇所もあります。四つ目の利用者と管理者、お互いを知らないという点について。私たち九州自然歩道フォーラムの意義の一つは、整備や管理を担当している国や県の人たちに「私たちとても期待しています」「楽しみにしています」とか、「ここ荒れているんですけど」と注目、関心していることをお伝えすることだなと思っていて、利用者と管理者の中継ぎをする役割だと考えています。

さて、荒廃のサンプルをあげます。たとえば倒木や落石で通りにくくなった状態。橋などの施設が危険な状態。案内サインがボロボロになっていること。でもこれはもうきれいに整備されています。この記念撮影している写真ですが、この楽しそうな写真の何が問題かという、太宰府市の政庁跡、昔の役所の跡地、遺構が残っている公園の部分で、この公園のど真ん中を九州自然歩道が通っていることになっているのですが、おそらく誰もそれを知らない。同じように、太宰府天満宮、菅原道真が祀られ、初詣で何十万人と訪れるところで、実はこの参道も九州自然歩道なのですが、それを理解して歩いている人はほとんどおらず、それでもおそらく利用者数としてカウントされているだろう点が課題ではないかと思っています。九州自然歩道の平成 27 年度の利用者数は 928 万人とされています。その中の半分くらいにあたる、福岡県は 450 万人とカウントされているのですが、実際に現場で数えているわけではなく、前年の実績の数に県内の観光客数の前年比をかけあわせたものが年々累積されているというか、そんな推定、推測の値で出ています。人は歩いているかもしれないけれど、九州自然歩道をこっち向きに 3 か月半歩いたら鹿児島につく、そんな一続きの道なんだということをぜひ知っていただきたいと思っています。

そんな九州自然歩道を再生する取り組みをはじめたきっかけです。加藤則芳さんのことです。整備から 40 年なんとか維持はされてきた、それもすごく大変なことですが、ちょっと利用者と離れていた状況だったところに、もう一度「思い」というか、「熱」というか、

「呼吸」を吹き込んでくださったのが加藤則芳さんだと思います。加藤則芳さんは日本にロングトレイルの文化を紹介した方です。ロングトレイルとはどんなものか？アパラチアントレイルを歩いた日々の出来事、トレイルエンジェルと呼ばれる地域の方のもてなし、孤独で自分と向き合いながら歩くのが大事であるということ、そして九州自然歩道の持つ可能性について、加藤さんからの話を聞く集まりが3回、2011、12年にかけてありました。私は3回とも進行の補助として後ろで板書をしていました。今日は木村先生もいらっしゃるので、お二人とも映っている写真を用意しました。一緒に信越トレイルを作ってきた時のお話を伺った時の写真です。

非常に感銘をうけ、そこに集まってきた九州7県のアウトフィッターたちがこれは何とかしなければならぬと、立ち上げの大きなきっかけとなった出来事であり、人物でした。

そして立ち上がった九州自然歩道フォーラム。くじゅうの長者原ビジターセンターで、さあ、トレッキングに行こうとイベントをしたときの写真です。

九州自然歩道フォーラムの設立趣意書からの抜き書きです。「九州の豊かな自然、歴史、文化、人をつなぐナショナルロングトレイルの実現を目指して設立した、個人及び団体のネットワークです。絆のトレイルを目指してさまざまな主体の密接な連携によって、再生に取り組めます」としています。みちのくを除けば、歴史の長い長距離自然歩道が9つある、でもちょっと残念な状況の部分もあるので、そこに僕たちの気持ちを込めていこうとそんな考えです。

ちなみにさつきからチラチラスみっこにあるカットですが、九州自然歩道のラインスタンプを作っていて「ちょっと3,000km歩いてきます」とかがあり、「誰が使うんだ」という突っ込みもありますが、僕らは使おうと言う話になってます。集まっては飲んで、加藤さんの思い出話をしたり、これからどうしようと話したり。九州各地から集まって飲むのが大好きで面白い、そんな団体でもあります。

こうした民間の有志の集まり、歩道の「活用」を頑張っていこうというフォーラムが、取り組んでいることを列挙しています。一つ目のフォーラムミーティングは毎回場所をかえて、今回は熊本県、次は福岡県という形で、各県の担当者の方、九州地方環境事務所の方、自然学校やアウトドア関係の方と話す場を設けています。二つ目の「九州自然歩道通信」は会報です。この会報の中でとても大事なものは、歩いてこんなに楽しかったですとか、私は管理を担当していますがこういうことを普段考えていますとか、管理する人も利用する人もどちらの声も載せることだと思っています。これを九州中、数百か所にばらまくということをやっています。三つ目の踏破証の制度。今、私が身につけている緑色のバッチは「スターターバッチ」で、九州自然歩道を一步でも歩けば、これを500円で買う権利が得られます。他にも全線踏破、各県踏破のワッペンもあります。そして、新聞の連載です。スタッフの福島が九州中で読まれている西日本新聞という地方紙で、月に1回、九州自然歩道を大方10kmずつ歩いていくという連載をしています。今、佐賀県が終わり、そろそろ長崎県に入るというところです。連載が終わるにはあと8年くらいかかるという気の長

い話です。中高年の読者も多く、若い 20 代の男の子が頑張っているのを応援してくださって、電話がきたりすることもあります。「私は歩けないけれど頑張ってね」とか。何しろ 104 の市町村にわたるので、しらみつぶしに普及活動していくのは難しいので、国立公園のイベントがある、市町村でトレッキングのイベントをするという際にガイド派遣をするとか、ブースを出展するなど相乗りする、連携するという形で普及事業をやっています。私たちは、これまでほとんどいなかった活用の部分の窓口を作ろうとしています。

大方時間になりましたが、もう少しだけ。ここから先は、こういうところでご紹介するものではないかもしれませんが、地域の方や地元の方などに、九州自然歩道、長距離を歩くとはどういうことか、ハイカーは何を求めているのかと説明することもありますので、そういうときにどんな言葉でお伝えしているかということをご紹介します。歩く旅は自分の力で進む旅、少しずつ景色が変化する旅、地域の人と触れ合う旅、地域を抱きしめる旅というようなことも言ったりしています。そんな歩くハイカーたちが地元の人に求めるものは、温泉や入浴施設やトイレ、テントを張ってよい場所、案内看板、安全な飲料補給、最近は GPS 機能もありスマホが不可欠ですのでコンセント、そして何より会話やコミュニケーションを喜びます。実際に福岡から鹿児島まで歩いた前述のスタッフによると「同じ九州でもどんどん下がって熊本県の水俣までに行くとみかんをくれるようになります」と言って、地元の人とのかかわりが違いがとても面白いと言っていました。

最後に、加藤さんの著書の中で紹介されていたやりとりをご紹介します。アパラチアン・トレイルで、いろいろ飲み物をくださったり、ハイカーに対して良くしてくれる、おもてなしをしてくれる方に「なぜ良くしてくれるのですか」と聞いたときに、地元のアメリカのおじさんが「私たちがやりたくてもできない素晴らしいことに挑戦しているあなたがたを誇りに思います。どうか神のご加護のもとにメイン州まで到達できますように」と言葉を返してくださったと本の中にありました。正直なところ、九州自然歩道が家の前を通っていてもそれに気付いていない方も多いです。が、九州をぐるっとひとつなぎにする歩道があること、自分と向き合いながら、もしくは地域を楽しみながら歩く人がいること。それに対して「元気で行ってきてね」と迎えて送るというそんな人が一人でも増えたらいいなと思って、フォーラムは活動を続けています。すみません、3 分ほどオーバーしましたが、ひとまずここまでで。ありがとうございました。

<<質疑応答>>

岡野隆宏

環境省の岡野と申します。長距離自然歩道を環境省がやっておりますが、先ほど木村さんから率直に酷評をいただきましたけれども、あれが真実というところですね。スタートから国が線を引いて、整備は県がやって、管理は市町村に任せますというトップダウン方

式でずっと作ってきました。その結果、先ほどもありましたが、地域の人にとっては目の前が自然歩道かどうかわからない、それって何という状況が続いていて、そういった状況ですし、歩道に愛着もないし、地域の人が歩くこともないし、そうすると地域の自治体も管理する意味があるのかとなっていて、放置されて荒れていくという負のスパイラルがずっと続いています。九州に行ったときにそれに気づきこれではいけないと思いまして、私も加藤則芳さんの本を読み、感銘をうけていたので、加藤さんに来ていただいて、いろいろ話をして今こういった取り組みをさせていただいています。

志賀さんが非常にやわらかくお話しをしてくださいましたが、本当に人をつなぐお仕事が得意で、今回重要だったのは歩く人と管理者をつなぐ場を設けてくださっている。それで管理者がやっと意味のあることなんだと気がついてくれて、特に都道府県の管理者はそれまで自然歩道ってなんですか、役に立つんですかと言っていた方が多かったのに、フォーラムで会うと、今度歩いてきます、歩いてきましたという人が増えていって、気持ちが入っているな、人のつながりは大事だなと思っております。そういう意味でフォーラムというのは大きな意味があると思っております。

長距離自然歩道の概念を最初にご紹介いただきましたが、自然歩道がスタートしたのは高度経済成長に対するアンチテーゼとして生まれています。1964年に新幹線ができ、オリンピックが行われ、ものごとがスピード化していく中で、人間の生きざまを見直すべきではないかと、そういう考え方の中であえて大阪から東京まで歩くコースを作りました。さらに京浜工業地帯から名古屋にかけて、どんどん工業地帯ができる中で、工業地帯で働く人たちが身近にリクリエーションが楽しめる場として裏山に歩道を通し、その周辺に自然公園という自然保護地域を設けることによって、さらに奥への開発を防ぐ、開発の防波堤というそういった意味もあって東海自然歩道ができました。ある意味、社会的というか哲学的なところから始まっているのが一つの特徴であります。

先ほど小林先生が、なぜ今歩くことを求められているのかとおっしゃっていましたが、出発当時のことと、今の社会情勢が似ている部分もあり、ある意味で成長を迎えたときやそこから社会が成熟に向かうとき、もう一度歩くのを捉えなおそうという形になっているのかなと考えております。2020年に2回目のオリンピックがあり、その前の2019年が東海自然歩道の構想からちょうど50年。リニアモーターカーが走ってまだ速くなるというこの時代に、もう一度歩くということを問い直すという意味で環境省としても長距離自然歩道を考え直しておかなければならない。そのときには、木村さんが今一生懸命関わってくださっている、みちのく潮風トレイルのように、最初から整備、管理に地域の方に関わっていただくという形と作り方、あるいはすでにそのように動いているところを振り返ることをしなければならないと思います。あわせてインバウンドということで、北海道から九州をつなぐひとつの道筋を見せるということも将来的に必要ではないか。そういうことも含めて考えていきたいと思っております。以上でございます。

黒見敏丈

発表ありがとうございます。私は出身が福岡県で、父が山登りが好きだったので、3歳くらいから九州のあちこちの山に連れて行かれていて、なおかつボーイスカウトもやっていたのでずいぶん九州自然歩道を歩いた人間だと思います。そういう意味では懐かしい風景だなと思って見せていただきました。歩いているときにいつも感じていたのは、ただ道があるだけという感じで、山の中を歩いていたというのもあるのですが、そこからなかなか沿道の人たちと話をする、仲良くなるということではなくて、歩く人同士は仲良くなれるのですが、沿道の方となかなか結びつきができない。そもそも自然歩道の目的は、自然、文化、歴史に触れて自然保護を進めていくということでしたが、最後のほうに人という言葉が一つ加わっていました。そこが一番フォーラムでやろうとしているところなんだろうなと思うのですが、発表を聞いていて、利用者と管理者である国や自治体とのつながりを作る、情報のやりとりをするというのは分かったのですが、沿道の方、あるいは沿道に住んでいる方、事業者の方などと、利用者あるいは管理者とのつなぎというのをどういうふうにしていこうと考えているのかなというのが一つ質問です。

もう一つは意見ですが、滞在型になるかなとお話しをされていたのですが、恐らく滞在型にしていくには長距離トレイルである九州自然歩道から枝分かれして地域の中で巡っていくようなトレイルができてこないと滞在型になっていかないだろうなと思います。そのときに、フォーラムという名称からしても、いろいろな情報を集めてそれを提供していくという団体の目的があると思うので、今の時代だと利用者がある場所へ行って、九州自然歩道から外れてまわったらこういう体験ができたというような利用情報を SNS 等で提供してくれる、それを集めてさらに情報提供するというような仕組みができてくると、長距離トレイルと滞在型がつながっていくのかなと感じました。そこで利用者といっても、日本人も最近は SNS を使って情報を出していくのですが、トレイルとか歩く観光について経験とか知識を持っている人たちというのは欧米の観光客や欧米からのインバウンドの人たちだと思うので、そういう人たちにできるだけ歩いてもらって、いろいろな場所でどういう体験ができるとかを情報として集めてどんどん提供していくようなことができると、私のふるさとでもある九州がもっと歩いて楽しい地域になるのかなと思いました。

志賀壮史

ありがとうございます。一つめ、近隣住民、沿線のみなさんとのつながりですが、おっしゃる通りだと思います。みちのく潮風トレイルや、世界遺産の奄美群島奄美遺産トレイルが現在、作られているところですが、ローラー作戦のように地域の方と話をしながら、どんなルートがいいだろうか、どんな食べ物を食べたらいいだろうかと地域の方の理解を得ながら、コースを設定している点が素晴らしいなと思っています。先に地図上に線をひっぱったという雰囲気があるので、その点はなかなか苦労しています。

また 3,000km あるとどこから手をつけようかということがありまして、今は梔子のきく

部分が、管理者とヘビーユーザーとの繋がりだと思って労力をつぎこんでいるような、そんなイメージです。なかなかローラー作戦的なワークショップをやっていくほど私たちも体力がないので、どこに力を注ぐがということで今やっています。でもとても大事なことであって、沿線住民の方に理解をしてもらう、そのためにも新聞の連載の企画を書いて実現させたという感があります。

後者につきましては、ロングトレイルがあってフットパスや体験できるコースがあるというのがいいなと思っています。熊本県の美里町のフットパスの井澤さんがパツと思いついておっしゃってくださったのが、ぶどうの房のような関係になれたらいいねというもの。ロングトレイルがぶどうの軸で、一個一個の実がフットパスで、そうやってつながっていかれたらいいねと教えていただいて、そういう風にやっていけたらと思います。ぶどうの軸はあまり美味しくないですけどね。軸は軸で頑張りたいと思います。ありがとうございます。

白井冬彦

ここまでの話を聞いていて、すごいなと思ったのですが、ひとつ違和感を感じるがあります。家内と私の唯一の共通の趣味が歩くことでして、実際よく歩きます。「その経験を踏まえて、「歩く」というキーワードと「観光」というキーワードで考えると、海外・国内旅行で歩くときに感じているのは、日本人の観光で歩く人たちは圧倒的にシニアが多いと感じているのですが、若い人の活動の話ばかりになっていた点です。ロングトレイルという言葉とトレッキングという言葉でハードルが高くなっていないかなと感じています。観光の分脈の中では「ハイキング」という感じで歩いている人がほとんどじゃないのかなと感じています。

歩く旅といったときに、私がキーワードとして頭に入れておいたほうがいいのは、シニアと健康という組み合わせだと思っています。歩く観光というイメージを大事にしたほうがいいのかなと。ここからは個人の話ですが、妻としょっちゅう歩くのですが、なぜ夫婦で歩くのがいいのか、うまくいえないのですが、向き合わないからじゃないかなと思っています。向き合わないで並列でいる関係ですと、1時間、2時間、3時間、4時間OKです。映画もよく行きますが、同じく向き合わない関係がいいですね、快適な空間です。映画は会話できませんが、歩くのは向き合わずとも適当に会話ができるので、肉体的なものだけでなく精神的な健康にもいいなと思っています。向き合わないで並列に横にいる人間関係は居心地がいいです。これが私の持論です。その意味で、シニアの夫婦にとって歩くことは極めて重要だし、非日常空間を歩くというのは観光のコンテンツとして可能性もあると思っています。ですからロングトレイルまでいくとハードルが高いなと個人的に感じてしまいました。

志賀壮史

ありがとうございます。観光面で語られると大丈夫かなと思っていたのは、私自身がロングトレイルを冒険と捉えているからなんですね。重なる部分もあるのですが、外を楽しむというよりは自分と向き合う、孤独を大事にするというところがあります。両者の軸と
いうか距離感を視野に入れて議論できたらいいかなと思いました。

西山徳明

ロングトレイルを本格的にやってらっしゃる方とほとんど体験的にやったことがない、私も無理だと思ってしまっていたのですが、志賀さんや木村先生があまり歩かないと聞いて、少しほっとしました。少しずつハードルが取れてきてより一層議論を進めていただけたらいいかなと。本当に今日はありがとうございました。優しいプレゼンありがとうございました。

九州自然歩道

- ・1980年に全線整備
- ・日本で2番目
- ・ネックレス型
- ・延長約3,000km
- ・阿蘇くじゅう, 霧島, 温泉地, 里山, 太宰府etc.











